

## 真鶴町立真鶴中学校

研究テーマ： 目標を持って、主体的に学ぶ力の育成  
～幼小中、12年間の学びを見通した授業づくり～

### 1 実践の目的

令和5年度から「目標を持って、主体的に学ぶ力の育成」を主題として校内研究に取り組んでいる。これは、変化の激しい現代社会では、学ぶ意欲や主体性を育み、激しい変化に対応できる力を養うことが求められていることから、目的意識をもって、他者と協力しながら課題を解決していく能力を育成することが必要であり、主体的に学ぶ力の育成の重要性は増しているために設定した。

真鶴町には幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ1校ずつあり、これまで幼小中連携教育を進めてきた。近年の学校規模縮小の流れの中、令和12年の開校を目指している小中一貫の義務教育学校設立にむけた準備が始まり、今まで以上に幼・小・中の12年間を見通した新たな真鶴町の教育が求められている。「目標を持って、主体的に学ぶ力の育成」を行うにあたって、中学校卒業時の真鶴の子どもたちの姿を思い描き、幼小中12年間の系統的な学びづくりを大切にしていいため、「幼小中、12年間の学びを見通した授業づくり」を副題とし、研究を深めることとした。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究の進め方

- 学習者の視点で授業改善を行う。生徒みんなが「わかる・できる」授業に視点をおいて、授業改善に取り組む。
- 1人1回以上は、教科で授業提案を行う。

できる限りお互いの授業を参観し、研究協議をして授業改善に役立てる。

- 幼小中12年間の学びを意識し、小学校における学習の程度を把握した上で各分野の指導にあたる。そのために、小学校の授業を積極的に参観する。
- 年度初めに教科で「生徒の実態」「生徒に付けたい力」「具体的な指導方法」を考え実践し、年度終わりには「実践」「成果と課題」をまとめる。

#### (2) 第1回学びづくり研修会

テーマ：授業改善に向けて

三浦修一授業改善アドバイザーをお招きして、研究の持ち方や授業改善に対する考え方などを講演いただいた。具体的には、今までの形ばかりの指導案ではなく、単元を大切にした授業デザインシートや授業後の研究協議をより効果があるものとするために、生徒とともにカンファレンスを持つことなどである。そして「あなた<sup>は</sup>授業<sup>が</sup>楽しいですか？あなた<sup>の</sup>授業<sup>は</sup>楽しいですか？」という問いを考え続けてもらいたいというメッセージをいただいた。

#### (3) 授業提案・研究協議の様子

各自年1回以上の授業提案と研究協議を行った。11月6日の校内研究全体会での代表者の授業については、以下4つの視点に留意し、チェックリストを活用しながら事前に指導案検討会を行った。

- ①「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」のつながりを意識した授業展開となっているか。

- ②生徒の実態を踏まえ「わかる・できる」授業に視点をおいた工夫がされているか。
- ③幼小中12年間の学びを意識し、既習事項を活用した授業となっているか。
- ④単元目標を達成するための1単位時間として、単元計画での本時の役割や位置づけが適切であるか。

特に4つ目の視点は、これまでの反省で、主体的で対話的な深い学びは1単位時間の授業の中だけで実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で生み出されていくといった視点を持つことの重要性を確認したことから、今年度の重点として新たに加えた。

全体会当日は全職員で授業を参観し、その後、生徒と共に授業づくりについて考えるカンファレンスを行った。そこで出た意見を踏まえて研究会を行った。研究会の最後には授業者へのメッセージを送った。

#### (4) 幼小中合同教育研究会

真鶴町立の幼稚園・小学校・中学校で小中一貫教育校実現に向けた課題の整理、12年間を見通したカリキュラムの再編・再考、実践研究を行った。「ふるさと教育」「外国語教育」「学校づくり」の3つの部会を定期的に行い、幼小中お互いの授業や学校の様子を見合い、今行っている活動の現状把握と今後の方針について話し合った。今年度は新校設立の方向性が明らかになり、目指す学校像について意見を交わす良い機会となった。

#### (5) 第2回学びづくり研修会

テーマ：授業づくりで困っていることを語り合う会

三浦修一授業改善アドバイザーとともに「授業づくりでの困っていることを語り合う会」という題で研修会を開催した。

### 3 実践の成果と課題

生徒の授業アンケートの推移をみると、授業で「できた」「わかった」といった思いをしていますか?という項目の肯定的回答が7月時点では71%だったのが12月は73%に伸びた。また、見通しを持ったり、振り返ったりしながら学習に取り組んでいますか?という項目の肯定的回答は7月は41%が12月は51%になった。どちらのアンケートもまだまだ課題が残る結果ではあるものの、少しずつ先生方の授業が変わり、そして生徒たちの学習への意欲が高まっているのではないかと捉えた。

授業改善に向けた意識を先生方がもてたことも成果と考えている。講師の三浦先生に年間を通じてアドバイスをいただき、困り感を共有したり、生徒が主体となる授業づくりを目指す中でも、授業者が楽しめているか、を大切にしたりすることなど、授業力向上への意識を高めることができた。

また、研究会のもち方も慣例に従うものではない運営方法を教授され、とても有効な研究会になった。生徒を研究協議に参加させる手法は、生徒が主体となる授業づくりにおいて、理にかなっている行い方で、とても有効であったと考えている。

幼小中合同研究会を通じて真鶴町が目指す新しい学校の在り方について、幼稚園、小学校の先生方とともに考えることができたことも今後につながる成果となった。



### 4 今後の展開

生徒が主体となる授業づくりについて考え続けていくことである。生徒と共に研究協議を定着させ、「授業は先生と生徒が

一緒に作っていくものである」という意識を真鶴中学校の文化にしていきたい。

幼小中 12 年間を見通した学校教育の実現に向けて取り組みたい。先生方がもっと交流を図り、町の教育で子どもを育てていくという意識で、小さな町だからこそできる教育を実践していきたい。